

アジアにおける海上輸送と主要港湾の現状

池上 寛 編

2012 年 3 月

独立行政法人日本貿易振興機構
アジア経済研究所

まえがき

本調査研究報告書は、アジア経済研究所において 2011 年度から 2 年間の研究期間で実施されている「アジアにおける海上輸送と港湾」研究会の 1 年目の中間報告書である。この研究会では、アジア地域内における海上輸送の拡大過程を明らかにするとともに、海上輸送の増加を促進した重要なファクターであるアジアの代表的な港湾の発展に着目し、その発展の要因を明らかにすることを目的としている。そのために、この報告書では研究会を通じて、アジア地域における海上輸送やアジアの主要港の現状分析を中心に、報告書をまとめた。

海上輸送は貿易における中心的な輸送手段であるだけでなく、国際物流においてももっとも利用されている輸送手段である。また、海上輸送で運ばれた貨物の揚げ降ろしをおこなう場所、つまり港湾をいかに効率的に運営するのか、あるいは整備していくことが現在の港湾においてもっとも重要な要素のひとつであることは疑いのないところである。この背景にあるのは、1990 年代以降、世界における海上輸送量は大きく拡大したことがあげられる。グローバル化の進展にともない、製造業では国の枠を超えた分業体制が確立し、そのなかで製造業者は国際物流を作り上げていかに効率的な物流体制をつくりあげるかが重要視されるようになった。このことが港湾の整備、拡充に結び付くことになった。

グローバル化の進展は多くの企業が海外に進出する要因になったことは間違いない。とくに、製造業の海外への進出は単に製造コストが安ければ進出するという時代は終わりを告げつつある。それは、多くの企業では分業体制を整えて企業活動をおこなっているため、製造コストの安さはもちろん重要であるが、インフラの整備、マーケットに近いことなども企業が投資する際に重要になってきているためである。とくに、分業体制が整っている産業ほど、いかに効率的な国際物流体制を作り上げることが必要になってきている。そのため、各国政府は外国企業から投資を受け入れるために工場周辺地だけの整備だけではなく、工場から港湾までの道路整備、通関制度の電子化や港湾の整備などこれまではあまり重要視しなかった部分にも投資や整備をおこなっている。このようなインフラが整備された結果、その分業体制を支えている国際物流も大きく変化することになった。このような動きはとくにアジア地域では顕著であり、アジア諸国を代表する港湾では取扱い貨物量を大きく増加させた。

アジア経済研究所では、2005－2006 年度にかけてアジア地域における物流についての研究会を立ち上げ、その成果を 2007 年に池上寛・大西康雄編『東アジア物流新時代－グローバル化への対応と課題』として出版した。この本は海上輸送に絞ったものではなく、航空輸送や陸路輸送などについても検討した。本の出版からすでに 4 年が経過した現在、アジア地域における国際物流は大きく変貌を遂げた。たとえば、アジア地域を中心にコン

テナ輸送量はさらに増加することになるとともに、上海港がシンガポール港や香港港という二大コンテナ港をしのぐ取扱量となった。また、リーマン・ショック後の 2009 年にはじめて世界のコンテナ取扱量が前年を下回るといった状況がおきた。このように、海上輸送の状況が劇的に変化する状況下で、今回は国際物流の中心である海上輸送に焦点を絞って研究会を発足させた。

研究会では、執筆した委員のほかにもオブザーバーとして小栗道明氏（本部企画部事業推進主幹）、森永正裕氏（研究企画部研究企画課長代理）にも参加していただいた。また、外部から講師として松尾俊彦先生（東海大学海洋学部教授）、津森貴之先生（岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授）、西村悦子先生（神戸大学大学院海事科学研究科准教授）にご報告いただき、今後の研究を進めるにあたって貴重な示唆をいただいた。記して謝意を申し上げたい。

なお、この報告書は 2 年研究会の 1 年目の中間報告書である。そのため、まだ十分な分析や検討がなされていない部分もある。こうした部分については、2 年目の研究会においてさらに検討し、調査や研究を続けていくつもりである。読者各位にあたっては、ぜひとも忌憚のないコメント、アドバイスなどをいただければ幸いである。来年 2 月に提出する予定の最終成果ではより現状に即した研究をすることによって、アジア地域の海上輸送や港湾の発展が明らかになるような報告書を作成していきたい。

2012 年 2 月

編 者

目 次

第 1 章	アジアにおける海上輸送の現状分析～海上コンテナ輸送について～	黒川 久幸…… 1
第 2 章	シー・アンド・エア輸送と港	岡田 夕佳…… 19
第 3 章	中国環渤海地区における 3 大港の発展比較	小島 末夫…… 29
第 4 章	中国長江デルタ諸港の現況	大西 康雄…… 57
第 5 章	香港港の現状と香港系 GTO の戦略的動向	姜 天勇…… 71
第 6 章	釜山港の現状と展望	李 貞和…… 87
第 7 章	台湾における中台間海上輸送の変化	池上 寛……101

執筆者一覧

第1章	黒川 久幸	東京海洋大学海洋工学部教授
第2章	岡田 夕佳	東海大学海洋学部 海洋フロンティア教育センター講師
第3章	小島 末夫	国土館大学 21 世紀アジア学部教授
第4章	大西 康雄	アジア経済研究所新領域研究センター長
第5章	姜 天勇	大阪市立大学大学院経営学研究科 附属先端研究教育センター特別研究員
第6章	李 貞和	神奈川大学経営学部特任准教授
第7章	池上 寛	アジア経済研究所新領域研究センター 企業・産業研究グループ